

# 第18次派遣(新千厩) 9月4日(日)~9月10日(土)

班長：杉本 一樹さん(東海)  
福井 悠介さん(近畿)

## 《全労金第18次派遣の2名が出発しました!》 9月4日

第17次派遣の神崎委員長、中村書記次長、児玉書記長、大変お疲れ様でした。

そして、本日からの第18次派遣として、東海労組の杉本 一樹青年代表幹事と近畿労組の福井 悠介青年委員が現地へ向けて出発しました。

今回は、全労金からは2名の派遣で、千厩チームも16名と少数での活動となりますが、全員で力を合わせて頑張ってください。

全国の組合員のみさなん、2名の方へ熱いエールをお願いします。



《左から 近畿労組 福井さん、東海労組 杉本さん》



## 《移動》 9月4日

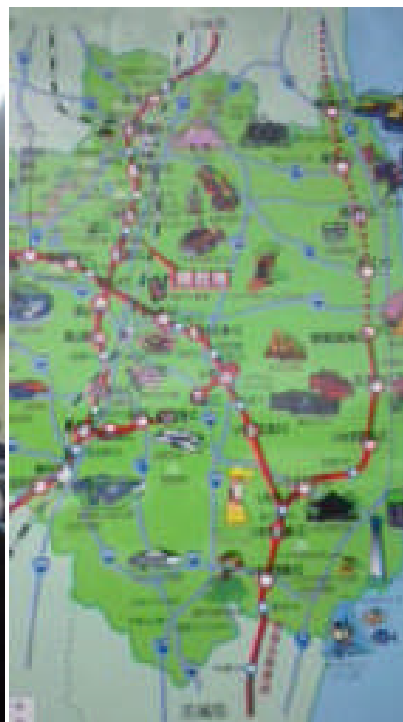
本日より陸前高田市にて救援ボランティア活動を行います、近畿労組の福井さんと東海労組の杉本です。全国のみなさんの思いを東北地方に届けながら活動していきますので、応援をよろしくお願いいたします。

さて私たちは本日、全労金に10時に集まり、その後、連合本部にて出発式を終え、11:10に連合を出発しました。出発式では連合が震災が起きてからこれまでの間、5,500名活動日数ベースで33,000名を派遣しており、自衛隊に次ぐ規模だと聞きました。全国の労働組合、労働者の力の結集でこれだけの大きな力になるんだと改めて思い知らされました。今回連合の第22陣、全労金では18次として参加しますが、我々一人一人は微力ながらも、その大きな力の一部という自覚、自信を持って頑張りたいと思います。

さて、私達は今、東北自動車道を通り、先ほど福島県の安達太良SAに立ち寄り、出発したばかりです。高速道路は混雑がなく、予定到着時刻の19:30よりも早く新千厩BCには到着しそうです。本日は移動でほぼ1日費やしますが、明日からの5日間の活動に向け、体力の温存と高いモチベーションの維持、いや、むしろモチベーションを更に上げていきたいと思います！明日からの活動は、我々全労金の2人と生保労連の堺さんを合わせた3名が班となり活動していきます。生保労連の堺さんについての紹介も本人の了解を得ながらまた行いたいと思います。

取り急ぎの報告としましたが、また到着し次第、みなさんに報告したいと思います。

以上、東海労組、杉本でした。



## 《無事到着》 9月4日

無事新千厩BCに到着しました。夕食も食べ、就寝時間となりましたが、気分が高まってなかなか寝むれそうにありません。しかし、明日からは力仕事となりますので横になり、ゆっくり休みたいと思います。

天候は行きのバスの中でも局地的な雨にみまわれましたが、今のところはこちらも雨は降っていません。ただし、明日は曇りときどき雨のようです。こちらに来たからには救援活動をしたいのですが、自然の力にはどうしてもかかないません。とにかく明日は予報が外れて晴れることを祈るばかりです。

気温については最後の休憩に寄った長者原SAから少しずつ寒さを感じていましたが、こちらはむしろ暑いです。扇風機をつけ、窓を全開にして寝ます。

被災地の町並みは一関インターを降りてから新千厩BCに着くまでの間、本当に震災があったのかな？と感じるくらい、綺麗な町並みで被害は一切ないように感じられました。

しかし、新千厩BCに向かう途中にあった一関市立弥栄小学校の前に「支援のみなさん、ありがとう。お気をつけて」と書かれた小学生が作ったであろう大きな手製の看板があり、「これまでの間にも多くのボランティアがきて今の綺麗な町並みがあるのだろうか」とか「見た目では分からないところで被害があるのかもしれない」といろいろと考えました。いずれにしても、短絡的に被害はないと考えてしまった自分に反省しました。と、同時に明日から頑張らないといけないなという強い気持ちも生まれました。

そんなことを話している全労金からの派遣の2人の写真(JP労組の方から兄弟？と言われました。眼鏡ですかね?)と、新千厩BCの外観の写真、そして今日の夕飯の写真をアップしておきます。

明日はいよいよ近畿労組の福井さんからのブログ書き込みとなりますので、近畿労組の皆さん、要チェックですよ！（東海労組、杉本より）



## 《作業1日目》 9月5日



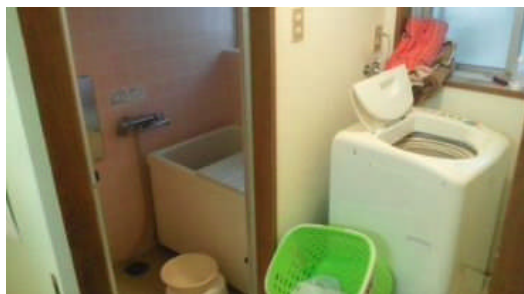
《全労金の2人と生保労連の堺さん》



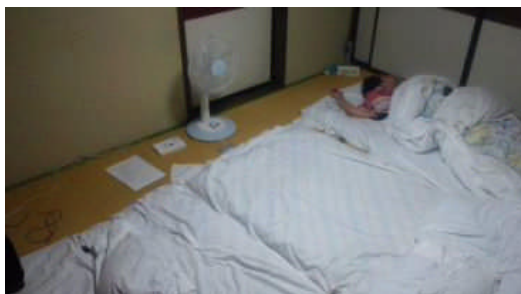
本日は近畿労金、福井が報告させていただきます。最初に、たくさんの方々からのブログへの書き込み、ありがとうございます!!非常に勇気づけられるとともに、職場のみなさんの支えがあってこそ、今自分がこうしてここで作業できていることに感謝せずにいられません。残り4日も頑張ります。さて、作業初日だった本日ですが、天候は予報通りやはり雨でした。午前中は小雨が降り続き、作業もどうなるかと思われましたが、本降りになることがなくてよかったです。そして作業内容は側溝の泥出しでした。我々千厩ベースキャンプだけでなく他のベースキャンプのメンバーと協力しあっての50人超での大掛かりな作業になりました。ひたすら泥を掻き出しては土嚢につめる作業を繰り返し・・・しかし終わってみると、積み上げられた土嚢ときれいになった側溝が残り、それを見ているととても爽快でした。今後も逐次報告していきますのでよろしくお願ひします。



## 《活動二日目(朝)》 9月6日



《洗濯機&冷蔵庫》



《寝ている生保労連・堺さん》

おはようございます。本日の天気は曇りです。少し涼しく感じられ、これ以上暑くならないといいなあと感じています。

昨日は普段やりなれていない力仕事で疲労もありましたが、作業終了後に道路両脇に積み上がった土囊を見た時の達成感や、そして明日以降も頑張ろうと我が班とJP労組班との団結会を行い、早めに寝たのでモチベーション維持と体力回復ができました。筋肉痛は特にありませんが、明日以降に感じられたら、年を感じざるをえません。



《食堂兼会議室》

昨日は全労金から用意いただいた様々な洗濯グッズを掘り出し、洗濯を行いました。洗濯については第17次メンバーからの報告もありましたように快適に行えます。洗剤についても前メンバーが残していただいたものがあり、準備していた洗剤もまだ使っていません。余れば置いていきますね。ただし、ベースキャンプのポンプが壊れてしまっているため洗濯に限らず、風呂や洗面所、トイレまで水が出なくなることが多々あり、この点だけは難点となります。止まってしまったポンプは再起動すればすぐに水が使えるのですが、屋外にポンプがあり、誰かに助けを求めないといけない場面もあります。ただし、ポンプについては今週中に新たなものに交換するようなので第19次以降メンバーについては不安を感じる必要はないと思います。

部屋は六畳ほどの部屋に布団を三枚ひいて寝ます。どんな感じが写真を載せておきますね。幸運なことに我々の班にはいびきをかくメンバーがいない（私はかくのか分かりませんが）ですが、別部屋からは聞こえてきますし、不安な方は耳栓を用意されるといいかもしれません。

ベースキャンプは全体的に合宿所のようなところで食事係やゴミ係など、ここでも班ごとに役割が与えられ、共同生活を行います。こうした共同生活の中でも、お互いに相手に思いやりの心を持つといった組合運動の精神がとても重要となります。他労組の執行部の方々の気遣いを拝見させていただき、私も反省させられる部分があり、非常に勉強になります。ボランティア以外でもこうしたことが学べる、また他労組の方々とも様々な話ができて、交流ができるのはとても良い機会だなあと感じています。今回参加に快く送り出してくれた職場や、労組、全労金のみなさんにこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございます。

少しまとまりのない文章になってきましたが、本日も作業に行って参ります。（東海労組、杉本）

PS 眼鏡兄弟は年からして杉本が弟ですが、見た目は年上ですか？

## 《二日目活動(昼)》 9月6日



本日二日目の作業は陸前高田のとある町の海浜から百メートルほど離れた畑の草刈り作業です。今は休憩中のため、また作業終了後に活動報告します。

こちらの作業場所は前述の通り、海から近いため、周りは津波の被害を非常に大きく受けており、堤防も壊れ、家はほとんどが流されています。

たまたま堤防沿いにあった、おそらくレストランは鉄骨造りのため、骨組みは残っていますが、木造家屋は基礎だけ残っているだけのところが多いです。本当に自然の力の前では我々は無力なのだとしか感じざるを得ません。

そうは言っても、無力感だけでは何も生まれません。被災地の方でも、復興に向けて頑張っている方も多いようです。我々ができることをこれからも頑張っていきたいと思います。

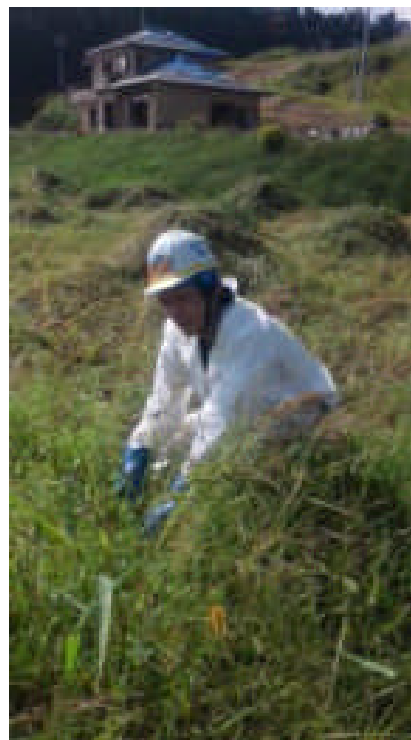


## 《二日目活動終了》 9月6日



いつもブログに対して温かい書き込みをいただき、ありがとうございます。思っていた以上に福井さんも杉本も皆さんの書き込みに力をいただいています。おかげさまで本日の活動も全員無事に終えることができました。

1日の活動の流れを少し説明しますと、8時半にボランティアセンターに行って活動希望の受付をすませ、ボランティアセンターが9時にその日活動を希望したボランティア団体に対し、依頼されている活動を割り振りします。これはどうやら個人も同じ流れのようです。本日は私の地元である東海地方から、亀山市職労組や愛知学院大学の生徒も陸前高田ボランティアセンターにきていました。活動内容が決まるとオリエンテーションを受け、自分たちで必要な道具を借り移動します。作業場所には10時前後に着き、そこからテント（休憩所）を張り、団長と班長がどのように作業を進めるか話し合い、その後作業に移ります。休憩を都度、団長の指示のもと取り（各自判断でも当然とれます）、12時から1時まで昼食休憩をとります。そして2時半くらいまで同じく休憩を取りながら作業をし、その後に後片付けをして、ボランティアセンターに3時半までに戻ります（ボランティアセンターから3時半までに戻るように依頼されています）。その後、ベースキャンプへ戻るという流れになります。もしかしたらベースキャンプによってスケジュールの違いはあるかもしれませんが、今のチームではそのような1日の流れになります。



本日の活動内容は昼のブログでも記載しましたが、少し訂正させてください。畑ではなく、田んぼの草刈り作業でした。草刈りといっても、草刈り機は使用できず、鎌を使用した草刈りとなりました。

何故手作業なのかというと津波に飲まれた地域であり、それ以降の手入れもされていないため、被災された方々にとって大切なものや、あるいは危険なものが草に埋もれている可能性があるためです。

およそ1,200平米ほどある田んぼを新千厩チームの17名それぞれが鎌を持ち、一斉に前へ向かって刈り続けました。午前中は曇りでときどき雨の降る、割と涼しい中での作業ではありましたが、切れ味の良い草も生えており、破傷風予防のため長袖での作業でした。午後からは晴れとなり、熱中症予防のため作業20分、休憩10分を繰り返しました。がれきとしては圧倒的に屋根瓦が多いですが、ガラスや釘等の危険物も多いです。それらは注意しながら取り除いてひとまとめにします。

本日の作業自体は活動場所のすべての草を刈ることができず、900平米ほどの草刈りとなり心残りではありますが、一步一步着実に前に進んでいると思っています。明日以降もそのような気持ちで焦らず、安全に、そして着実に活動を続けていきたいです。

なお、本日はベースキャンプに、連合岩手の方で、実際に被災された方をお招きし、震災時の貴重なお話をさせていただきました。

以前に東海労組の加藤さんが話を聞かれた方だと思いますが、地震が起きてみんなが高台へ逃げる際に、人が歩道を走って高台へ逃げているにも関わらず、車がその人達をはねて歩道を走っていたという話を実際に聞き、いろいろと考えさせられました。

おそらく車を運転していた人達は自分のことで精一杯で、他人のことは考えられない状況だったのだと思いますし、実際に連合岩手の方も家族のことを考えられたのは、家に戻る時だった、それくらい余裕がなかったと話されていました。

そうした話を聞いた時には、自分が同じ立場だったらどうしただろうと考えましたが、答えを出すことができませんでした。皆さんならどのような行動をとられていたでしょう？JAMの方ともこの会話で長い時間語り合いましたが、正しい答えはないと思います。

ただ、現地の今後の復興に向けて、二度と同じことが起きないように、対策を打つことは可能だと思いますし、我々が各単組に戻った時にそのような現実を伝え、一人一人がそのことについて真剣に考えることは可能だと思います。本当に今回のボランティアでは考えさせられることが多いです。(東海労組、杉本)



## 《作業3日目》 9月7日



お疲れ様です。近畿労金、福井です。本日で作業3日目です。天気は晴れです。晴れだと雨具などの装備がいらないため、身は軽いんですが、熱中症のリスクが高まります。水分補給を大切に、今日も作業にあたります。今日は砂利を扱っている会社での作業です。袋詰めされた20キロの砂利がありますが、その中の袋が破れているものを土嚢に移し替えています。しかし移し替える土嚢も破れやすく、作業は困難です。話は変わって、杉本くんが投稿してくれた通り、昨日の夜、被災者でもある連合岩手の吉野さんからお話を聞かせていただく時間がありました。現地には自分が認識していたレベルを超えた惨状があったことに衝撃を受けました。杉本くんが紹介してくれてますので、お読みになった方は以下は読み飛ばして下さい。陸前高田では地震のあとは必ず津波から逃げるよう教育がなされていて、津波に対する意識は非常に高いものがあるとのこと。そのため、地震直後、すぐに高台への避難が始まりました。吉野さんは会社に人が残っていないか確認し、発生20分後くらいに外に出たそうです。しかし、道路は渋滞し、全く車を出せない状況でした。そのため、走って逃げることにしましたが、歩道にまで猛スピードの車が。吉野さんと同じように走って逃げていた人を何人もひき殺して逃げて行ったそうです。文字通り人が宙を舞っていた。私にはその是非を判断することができませんが、be humanたることの難しさを感じました。エゴイズムと理性・モラルの葛藤があったと思います。極限状態に置かれた時、どうなるのか。私は教育実習の際にある文章を題材に一部このテーマで生徒に作文させたことがあります。モラルに立脚した意見、人間の獣性を肯定する意見、折衷した意見など様々な考えが述べられていました。今回のお話を聞いてそれを思い出しました。生徒は高校生でしたが、皆、非常に真剣に、考えて書いてくれました。今回の震災では上記のような側面もありながら、これはテレビ等でも報道され、私たちが今現地で実感している通り、日本人の絆、あたたかさを再確認することもできました。このような災害があったことに対して悲しむべきことが多いですが、今現地では復旧そして復興への歩みが進んでいます。その中には、我々が過去から脈々と受け継いできた意識的・精神的な文化を、より高次なものへと昇華させていくことも含まれるのではないかと私はそう考えています。

## 《3日目作業終了》 9月7日



お疲れ様です。福井です。本日の作業が終了しました。ボランティアセンターには個人・企業問わず、様々な依頼が掲載されていますが、この3日間についてはその中でもかなり重労働な作業なのではとの感想を持っています。それだけ先に現地に入られた方々の活躍が素晴らしく、連合への期待が高いのだと思います。本日が折り返し地点でしたが、明日以降、後半も気力で乗り切っていきます。写真は作業終了後に、気仙沼市街地を訪れた際のもので、船が陸地まで到達し、津波の威力を思い知らされます。鎮魂の思いを込め、東北が復旧から復興、そして発展していけるよう力になっていきたいと強く願います。P.S. 先ほどの投稿について表現が過激だったと思います。ただ、ありのままを伝えたい、また全国の仲間に考えてもらいたい、そしてそれが被災者の方から話を聞いた私の責務であるとの思いからあえてオブラートに包まず、吉野さんの衝撃的な語りを拝借しました。現実を直視し、自分の今までの経験・考え・価値観の中でそれを理解しようとし、反芻していく中で、新たな境地が見えてくるのではないかと考えています。



## 《食事》 9月8日



おはようございます。ただいまボランティアセンターへ向かっている最中です。本日は活動四日目となります。昨日はよっぽど疲労が溜まっていたのか、一度も目覚めることもなく、本日朝を迎えることができました。おかげで本日もフルパワーで作業できそうです。

先日いただいたコメントで、ぜひ食事を見たいという要望をいただいたので写真を載せます。

基本的に朝は弁当+味噌汁+お茶ですが、JPさんからの差し入れの「野菜1日これ一本」も現状いただいています。全体的に野菜っ気が少ない中、JPさんの差し入れの野菜ジュースは重宝します。本当にありがたいです。

昼はおにぎり2つ+お茶・スポーツドリンク・水（作業中の飲み物でそれぞれ一本ずつ、連合よりいただけます）が基本ですが、自分達で前日の帰りに寄ったスーパーで買ったものも持ち込んで食べています。漬け物や、果物、惣菜など多岐にわたります。なお、おにぎりの具は今のところ必ず梅が入り、もう一つが日替わりの具になっています。梅干しに含まれるクエン酸が疲れを吹き飛ばします。ちなみに日替わりの具材は昨日は昆布、その前は漬け物、その前は鮭でした。東海労組の加藤さんも言っていましたが、みんなの昼の楽しみにもなっています。

そして夜は弁当+味噌汁+お茶に、またJPさんからの差し入れの野菜ジュースをいただいています。昨日は写真の通り、私の大好きなカツカレーでした。なお弁当以外にも、また夕方に寄ったスーパーで買った具材を食べたり、様々な労組さんから差し入れでいただいたりもします。写真ではJAMさんからいただいた野菜が載っていますが、JR総連さんからしめ鯖、イカや甘栗等もいただきました。本当にみなさん、温かい人ばかりただただ感謝です。いただければかりも悪いので、第17次メンバーよりいただいた差し入れも少し使わせていただきました。ありがとうございました。

また何か要望があればコメント下さい。では本日もいって参ります。（東海労組、杉本）



## 《四日目活動無事終了》 9月8日



四日目の活動も無事終了しました！

本日も昨日と同じ、陸前高田支内のリアスという会社にて袋の破れてしまった製品の砂利を土嚢袋につめる作業や、タイルなどの陶器やレンガ、各種コンクリート製品をパレットに積み直す作業を行いました。

何故このような作業を行うのかというと、実はリアスさんの工場や倉庫は津波にすべて飲み込まれ、残ったのはもともと製品の仮置き場としていた利用していたこの場所だけだそうです。

これまでの間、従業員の方も津波に飲まれた家の後片付けや、精神的なショックにより、働くことができず、製品の袋が劣化して破れてしまった、あるいは積んでいた商品が、パレットの劣化で崩れてしまい、そのままになっていたようです。

昨日は社長と常務が直々においでになり、我々に労いの言葉をかけていただきましたが、お二人とも家は流され、今は仮設住宅住まいのようです。そして、どうやらこの場所を借りている地主から早く宅地にして売りたいのでリアスさんが立ち退くよう言われている、そのために我々がそのお手伝いをする、そうした話も聞きました。この場所は海から3キロほど離れていますが、津波はこの一帯さえも飲み込んだようです。幸いにもリアスさんが借りているこの場所は高台になっており、被害が一切ないのですが、そのおかげで宅地としての需要が相当あるようです。また我々が整理した製品は地元業者に安く売って、会社はたたむそうです。そうした一連の話を笑顔で話されていましたが、それはやりきれない気持ちを我々に伝わらないよう必死に我慢しているように感じられました。

社長、常務もそうですが、従業員の方達も今後どのように生活を送られるのだろうか・・・被災者の方々の今後の生活を考えられずにはられませんでした。

今はガイドラインが策定され一定程度二重ローン問題についても方向が決まり、動き出していますが、それでも十分とは誰しもが思っていないと思います。

雇用についても、復興のための雇用創出とも言われますが、それだけでは復興した後のことを考えると、中小企業がどんどん倒産しているため、復興後の安定した雇用には到底つながりえないようにも感じられます。

どうしていけばいいのか、私達にできることはなんだろうか・・・それはやはり私達が経験したことを少しでも多くの方にも知ってもらい、その結果、少しでも多くの方に自分に何ができるのかを考えもらえるように努めるしかないと思います。職場や労組に戻ったら、少しでも支援の輪が広がるような活動をしようと福井さんと共に決意表明し、本日の活動を無事終了しました。(東海労組、杉本)



写真は作業前風景作業後風景（後左からJP労組能勢さん、生保労連堺さん、近畿労組福井さん、JP労組広瀬さん、正面東海労組杉本）作業場所（左上の高台が作業場所です右の建物は高さ4mのどこまで津波により壊れています。海から3キロ離れているのに・・・）

## 《作業5日目》 9月9日

お疲れ様です。近畿労金、福井です。本日作業最終日です。天気はこの一週間で一番の晴天ですが、気温が高く、最高気温は三十度を超えています。高温と容赦ない直射日光に体力が奪われます。我々千厩チームでも一人、日射病になり、現在休養しています。幸い大事にはいたっておらず食事が食べれる程度に回復されていますが、改めて体調管理の重要性を認識させられます。高温下での注意力の低下により、事故が起こりやすくなるため、その点も留意が必要です。本日の作業は個人所有の田畑の草の除去です。写真は樹の上まで達した衣服（津波がその高さまで達していた）、作業場です。



## 《最終日》 9月10日

お疲れ様です。福井です。救援ボランティア活動、事故無く、活動を終えることができました。先ほど東京に到着しました。私が現地に残してきたもの、力になれたことはほんのわずかだったと思いますが、チームのメンバーさらには連合という組織で協力することにより、大きな力を生み出すことができたと感じています。被災地の現状を肌で感じ、考え、行動した1週間。振り返りながら帰阪します。

最後に。このブログを通じて応援いただいた方々に深く御礼申し上げます。現場へと向かう、自立した一人の社会人の心の琴線に触れるような、心震わせる応援を、次陣のメンバーにも、よろしくをお願いします。

次陣の方へ。もうすぐ旅立ちの時を迎えると思います。不安や迷いを解く光のような言葉（コブクロ『虹』より）を私は持ちませんが、自分ができることを見極めて頑張ってください。みんなが同じパフォーマンスは発揮できませんし、筋力・体力には個人差が大きいです。それぞれに適性があります。それを自分なりに考えてからは作業効率が向上したと感じています。

思いを書き尽くすことはできませんが、1週間ありがとうございました。

杉本くん、千厩チームのみなさん、本当にありがとうございました。



## 《無事到着》 9月10日

無事、東京に着きました。

この間、ブログへのコメントやメール、電話等、様々な形で応援いただいた全国の労金労組のみなさんには本当に力をいただきました。本当にありがとうございました。

また連合第22陣のメンバーのみなさん、事務局のみなさんにはお世話になりました。本当にありがとうございました。同じ屋根の下で過ごしてきた福井さん、生保労連の堺さん、お疲れ様でした。ありがとうございました。

そして明日出発される連合第23陣、全労金19次のメンバーのみなさん、頑張ってきてください。

一週間という期間は本当にあつという間でした。この間、様々な作業を行ってきましたが、1日の作業としては終えても、それは依頼者の方にとってボランティアに望む支援のごく一部であり、また、連合としておよそ180日間活動は行ってきましたが、まだまだ支援を必要としている方はおみえで、私達ももっと力になりたいという気持ちが日々強まっていく中、帰らなければならない現実に非常に悔しい思いをしています。

しかし、もしかしたらこうした熱い気持ちを持たれた状態で帰るのが一番よいのかもしれません。JP労組チームの班長が最後のあいさつでおっしゃっていました。「普段の職場の中では相手を思いやって、相手のために何かやってあげたいと思う気持ちを持つことができない時があるが、今回の活動では組合活動の原点である相手のためにという気持ちをみんなが常に強く持っていた。こうした熱い思いを職場においても持っていてほしいし、他の組合員にも持ってもらうためにも、より多くの組合員に今後も参加してもらいたい。そのことが組合運動をより強固なものにさせていくし、大きな力となり、東北地方の復旧・復興にもつながる。」

私は今回、東北地方のための活動を今後もやっていきたいという気持ちは当然にもちましたが「職場でも」という部分には深く感銘を受けました。確かに職場でもみんなが「誰かのために」という気持ちを持っていれば、自然と東北地方に目を向け、自分ができることを自分で考えて行動するだろう、そしてそれは今よりもより大きな力となり、必ずや東北地方の復旧・復興に寄与するだろう、そのように思いました。

当然、今回我々が経験したこと、体験したことは単組でも伝えていきますが、「思いやりの心」を持ってもらえるような活動を東海労組青年委員会でも行っていきたいと強く感じました。(東海労組、杉本)



《ボランティアセンターにあったメッセージの一つ》



《最後の晚餐》



《東京到着》

以 上